

2024年度

大阪府訪問看護実践研修  
教育ステーション事業  
実績報告書

南河内ブロック

医療法人 正雅会 つじもと訪問看護ステーション  
芋生 和代



## 目標

- 1.多職種向けACP研修を成功させ、地域での定着を促進する
- 2.訪問看護ステーションの運営、業務全般の助言や指導、制度や診療報酬について正しい知識が得られる。
- 3.訪問看護ステーションの現場体験を通して、地域連携につなげるための役割について理解を深め、継続看護の重要性を認識する。

# 研修事業

- 6月22日 『ACP支援実践人材育成研修』

スバルホール 41名



2024年度 大阪府訪問看護実践研修事業 教育ステーション事業  
「令和6年度大阪府人生相談対応支援事業」  
一般社団法人大阪府訪問看護ステーション協会  
南河内ブロック教育ステーション  
医療法人 正雅会 つじもと訪問看護ステーション

人生会議 (ACP) の実践に必要な基本的概念や知識方法がわかる

## ACP支援実践 人材育成研修

基調講演 (動画) ロールプレイ

講師: 濱吉美穂氏  
佛教大学 保健医療技術学部  
看護学科 老年看護学領域

2024.6.22 (土)  
13:30~16:30

地域の医療・介護を支えるお仕事、お疲れ様です。  
人生の最終段階に至るまでの医療やケアについて話し合う人  
生会議の取り組みは大切です。広く府民に、普及啓発し  
ていただく人材を育成する研修です。住み慣れた地域で、最  
後まで暮らしていただけるように、一緒に学びませんか？

**対象者**  
地域で活躍する医療・福祉・介護職  
(医師・セラピスト・MSW・CSW・  
ケアマネージャー・介護士の方々)

**会場**  
すばるホール3階 清光の間

QRコードからのお申込み

**【アクセス】**  
すばるホールへの案内図

**お問い合わせ**  
つじもと訪問看護ステーション (学生)  
電話: 072-367-2333  
FAX: 072-367-9621



**ACPP研修**

**ステーション  
スタッフ**

**医師やケアマネ**



**地域包括支援センター  
理学療法士**

## 訪問看護ステーション体験研修のご案内

2024年度（医）正雅会 つじもと訪問看護ステーションは、大阪府の委託を受け南河内ブロックの教育ステーションとして活動していきます。教育ステーションとして訪問看護の体験研修を実施することになりました。

この研修は、訪問看護に関心がある専門職を対象として、同行訪問や手技演習、カンファレンスや勉強会等への参加など、お持ちの経験、知識、技術に応じた実践的な体験研修を行うものです。

訪問看護に関心をお持ちでしたらどなたでも歓迎いたしますので、ご参加お待ちしております。

研修は無料でうけれます！



### 【対象者】

- ・訪問看護に関心ある看護学生
- ・スキルアップのために、他の訪問看護ステーションの実践を体験したい訪問看護師
- ・介護職や医療機関の看護職等で、連携の質向上のために訪問看護の体験や研修を受講をしたい方

### 【プログラムの種類、日時、内容】

コース	日時	日数	主な内容
看護業務コース	5月～12月 8:45～17:00 (平日)	1日	訪問看護に興味がある方や従事している方が、スキルアップを図るために訪問看護ステーションでの実践を体験するプログラムです。
管理業務コース	5月～12月 8:45～17:00 (平日)	1日	訪問看護の管理者を目指している方、すでに管理者として従事している方を対象として、訪問看護の事業運営や人材育成、地域包括ケアシステムを多角的に捉えるためのマネージメントプログラムです。

【申し込み方法】 申し込み書に必要事項を記入の上、FAXにてお申し込みください。

# FAX:072-367-9621

### 【問い合わせ先：教育ステーション】

つじもと訪問看護ステーション（イモオ）  
電話 072-367-2333 FAX 072-367-9621

### 【協力ステーション】

- 羽曳野市 四天王寺悲田院訪問看護ステーション
- 大阪狭山市 子りず訪問看護ステーション
- 富田林市 大阪府済生会富田林訪問看護ステーション
- 富田林市 希望や訪問看護ステーション
- 河内長野市 訪問看護ステーション寿里苑こはる
- 藤井寺市 藤井寺市訪問看護ステーション



# 体験研修

## 病院等の看護師のための体験研修

目的：訪問看護ステーションの現場体験を通して、訪問看護師の実施している看護と入院前・退院後の患者の生活について理解を深め、入・退院時の支援の必要性を理解する

目標：入院前・退院後の患者の生活をイメージすることができる  
訪問看護の機能について理解することができる  
在宅ケアチームにおける多職種連携について述べる事ができる

- 内容：1. 朝のミーティングに参加（研修生の紹介）  
2. 研修の流れと施設オリエンテーション  
3. ミニ講義（施設概要や介護保険、ケアマネジャーや医師など多職種との連携）  
4. 訪問看護師との同行訪問（さまざまなケース：2～3件/日）  
5. 可能であればケアカンファレンスに参加（1件/日）  
6. 目標に沿った体験研修の振り返り

### プログラム

時間	内容	備考
8:45～9:30	朝の申し送り・ミニカンファレンス参加	研修の流れ テーションもロー
9:30～12:30	管理者または指導者からミニ講義（施設概要や介護保険、連携など） 時間があれば同行訪問（1件～2件）	
12:30～13:30	休憩	同行看護師から利用者についての情報提供 記録
14:00～16:00	同行訪問（1～2件）	
16:00～17:00	体験研修の振り返り	

## 訪問看護師等職員の実習

目的：訪問看護ステーションの現場体験を通して、訪問看護師の実施している看護と利用者の生活について理解を深め、訪問看護の医療的な処置の実際を理解する

- 目標：1. 褥瘡の処置  
2. 胃瘻や留置カテーテルの扱い方や実際を見て学ぶ  
3. 処置後の記録類の見方や訪問看護計画の記録・保管方法について理解することができる  
4. 在宅ケアチームにおける多職種の連携について述べる事ができる

- 内容：1.  
2. 研修の流れと施設オリエンテーション  
3. ミニ講義（訪問看護ステーションの機能や役割）  
4. 訪問看護師との同行訪問（3件/日）  
5. 可能であればケアカンファレンスに参加（1件/日）  
6. 目標に沿った実習の振り返り（事例による訪問看護計画や多職種との連携について等を含める）等  
プログラム例

時間（目安）	内容	備考
9:00～9:30	朝のミーティングに参加（研修生の紹介）	研修の流れとオリエンテーション 簡単な利用者や訪問の目的・内容 などの説明
9:30～10:30	管理者又は指導者よりミニ講義	
10:30～12:00	訪問看護師と同行訪問可能であればケアカンファレンス	
12:30～13:30	昼休み	
14:00～16:30	訪問看護師と同行訪問 （2件）	
16:30～17:00	実習の振り返り 事例による訪問看護計画や多職種との連携について等	

## 訪問看護「教育ステーション」による 電話・FAX相談を開設しました！

### ＜ケアマネジャー・その他専門職の皆様へ＞

下記の教育ステーションでは、訪問看護師が、ケアマネジャーさんやその他専門職の皆様の医療・看護に関するご相談に対応しています。どうぞお気軽にご活用ください！

4月～12月末  
実施中。お気軽  
にご活用下さい。



### たとえば、こんな相談をお受けします

- 訪問看護等の医療系サービスの導入方法
- 訪問看護や訪問看護に関連する制度について
- 在宅療養に向けて必要となる医療的ケアや環境調整
- 他職種（医師等）とのスムーズな連携方法
- 利用者の医療ニーズのアセスメント
- 家族・介護者への介護指導や支援の必要性の判断 ……など

相談  
無料

(医) 正雅会

つじもと訪問看護ステーション

(南河内ブロック教育ステーション)

相談日 月～金 9:15～17:00

電話：072-367-2333

「電話相談です」とお伝えください

FAX：072-367-9621

FAX相談用紙をご使用ください

※迅速【2日以内】にご返答させていただきますが、勤務の都合上遅れる場合もあります。  
※ご相談内容は、事業報告書等に掲載する場合がございますが、ケアマネジャーの皆様やご利用者様の個人情報が特定できる形で公表することは一切ございません。

つじもと訪問看護ステーション（担当；イモオ）  
〒589-0031 大阪狭山市池之原2丁目1128番地の2

# 電話相談

## 相談件数 27件

相談者：地域の訪問看護ステーションの  
管理者・職員（スタッフ・事務職員）  
ケアマネジャー・地域包括支援センター  
保健所の保健師

相談内容：診療報酬・契約書・運営

## 事業全体のまとめ

- ▶ 多職種間での意見交換や立場の違いを理解し、人生会議を開くことの意義や難しさを実際に体験できる機会となった。今後府民にもACPを広めていける人材育成の一端を担える研修となったと考える。参加者数は、まだまだ少ないので、今後ACP研修を重ねて実施して行く必要があると考える。
- ▶ 日々の業務の中で報酬関係や指示書や記録などわからない時に電話やFAXですぐに相談できて解決の糸口が見つかる教育ステーションが地域にあることは多くの方にとって心強く有益であると考えます。
- ▶ 病院看護師が、生活を視点に置いた看護を在宅の現場を体験することで、病院から在宅、在宅から病院への継続看護の重要性を再認識する機会となり、地域連携につなげる必要性を学んでいたと考える
- ▶ 今回、2か所のステーションが教育ステーション活動を行ったが、情報交換や協力体制が充分とれなかった。もう少し積極的にかかわりを持つべきだったと考える。事業を実施する管理者の負担軽減のためにも連携や協力体制の構築は、必要不可欠である。